

のけ浪洋行。こ水が海水浴客
で満員。

二台行とうと集議一決、折か
ら来たのが、東京行の横須賀

線、そこは旅おれしている青木
さんの飛架で、それに乗る。

東京駅に着くと、無情なる
駅員が、回送電車ですから出

て下さ、い、大きい産を張りあ
げて来る、い、うか、ない、な、あ

と、ぞろぞろと入口まで来た
、ると、プ、ラ、ッ、ト、フ、オ、ム、に

並んでいた人達が、ぞあ、と
入って来た。オ、サ、に、堤防の

切れた河の水。安領のい、御
仁が、駅員の後についてきて

たので、たちまち逐もどりし
さ、と、一、フ、ロ、ウ、ク、を、取、つ、て、し

まう、何、れ、出、な、く、た、つ、て、い、い、
んじ、あ、な、い、か、駅員、口も

ぐく、その腹いせか、子供
を抱いて、いるおぢさんを、一

衣出てくぢさい、一、衣、出、て、く
ださいと押している。

そのあい、片側を河の水、
が、どう、と、流、れ、込、む、の、

電車の中で、園にし、いの
が、居、て、この電車は三人がけ

だ、と、は、かり、二人のオに、新
リ込、んで、禁煙の車内で、新
スバ、く、こ、ち、ら、は、ゴ、ホ
ン、ク、

曇、て、いる、空を、染、め、なが
ら、映画の、説、キ、ヤ、ニア、の

話、い、い、い、時間、は、知ら、な
いう、ち、に、す、ぎ、て、緑、蔭、駅、に

す、べ、り、込、む、大部、方、降り、た
ので、バス、は、満員、横、約、象

某、氏、は、塔、こ、う、か、と、ん、で、も
を、い、大、分、あ、る、よ、う、

比、よ、う、やく、飛、り、こ、ん、で、由
い、て、く、れ、た、所、を、い、ら

つ、し、い、い、あ、い、て、ま、す、よ、の
茶、色、い、糸、に、何、度、も、送、ら、れ、て

中、路、に、あ、る、ゴ、リ、ウ、の、で、つ
か、い、画、が、ぶ、ら、さ、が、つ、て、い、る

朝、日、新、曲、の、引、引、休、憩、所、に、入
る、ま、ち、う、ん、抜、け、目、の、ない、人

は、い、る、も、の、で、刺、券、は、持、持、
て、い、た、そ、れ、に、ゴ、リ、ウ、は

我が、腰、に、大、い、に、肉、添、あ、る、か
ら、わ、

二番渡江

あ、あ、い、う、登、居、の、土、間、ど
め、く、して、見、持、の、悪、い、も、の
で、あ、る、ど、の、為、二、階、に、す

る、か、下、に、す、る、か、し、ば、ら、く
、と、ま、ど、つ、た、あ、げ、く、下、で

我、慢、す、る、車、に、し、た、す、ぐ、海
に、入、つ、た、例、カ、大、き、な、ス

ン、グ、コ、ン、グ、の、着、板、が、あ、る
の、で、ま、す、う、ま、は、い、い、水、に

入、つ、て、し、ま、う、と、見、れ、ば、ど
ろ、く、な、か、つ、た、相、半、大、き、な

波、が、来、る、し、ば、ら、く、泳、い、て
、い、い、や、水、に、つ、か、つ、て、

い、る、内、に、ふ、と、氣、が、つ、く、と
、耕、ち、や、ん、が、居、た、い、は、て

、溺、れ、た、か、ら、？、と、思、つ、て、い、
る、と、エ、ム、ポ、ト、の、小、さ、い、

や、つ、て、引、き、つ、て、来、た、
特、一、ま、し、た、と、ば、か、り、海、の

中、に、引、き、つ、り、こ、り、お、お、耕
ち、や、ん、が、低、び、来、一、た、の、は、

長、い、わ、た、が、の、ひ、よ、う、し
に、僕、は、オ、ール、で、目、の、上、を

と、た、た、か、ひ、つ、た、か、れ、た
。別、に、ど、う、な、か、つ、た、か、れ、た

い、や、その、痛、い、の、ぢ、ん、の、と

来たら、ようやーとこらえ程だ。しぼらくつかまつて決のりばどしていたが、こつと沖に出て見ると、衆議一決、大波にさかういながら、首がさうやく出る位のところにいれたのであつた。しぼらくとこで遊んでみると、急に一人の人は卑しかうぬ、おじさんが、やに巾にボートの上に乗つかつてしまつた。おつてにたられた僕達は、相手が大人なのので、おりのとさう説いていかず、しぼらくぼさーとしていると、その人もこつちが変な顔をしていゝのに、髪付き突然落しかけて来た。助けて下さい、たのじます。つかまつて下さい。僕達は向にが何にやらおから、乃かつたのび、そのまゝにしておいた所、今度は、お願ひです、浅い方につれて下さい。と、いゝ出した、何し約大さな天がくわのボートは、どんん岸の方に流されていゝ。おんあに、今に行きませう。青水さんが誰か知らぬが、さうさう

たのびは、相づちを打つた。あ、自然に流れていゝつちやうさ、大木夫だ、等々。さうすると、今度は必死に浮つてたのびだした。お願ひですからボートを岸の方にやつて下さい。ボートにしががつかつて、さういゝのが、さすがにあわれにたり、岸のすに押して行つてやつた。浅い所にくと、さういゝおんまかせん。と、いゝつて顔をささむから、決に上つていゝつた。その後を見おくつて、僕達は、大衆い。おんだ今のやつは、川崎君が見ていたと、うだが、塩水を多量に召し上つたらしい。お水にして、お僕達でさえ背が立つのに、すいふん弱虫しる男だ、と、大笑い。しぼらく遊んでボートをかえして、又水に入つてから、茶屋に帰つて、昼飯を食べる事にした。前と違って、いゝ所をば、さましたのび。

— 続きは次号へ —

我々の栄養

私達が生きていくために、体の中の細胞が活動するが、この活動のために必要なたんぱく質(蛋白質)は、栄養素をえやす事によつて得られる。栄養素をえらるゝ為に、食物の量を一定量以上必要である。もし必要だけの量が得られぬ、行われぬ、体の働きは、中分たりして、だん／＼弱つてしまふ。もし、だん／＼弱つてしまふと、おん達の食物として、炭水化物、脂肪、蛋白質、無機質、ビタミン、水の六つ、栄養素が必要であるから、この中どれか一つでも不足している、と、色々病状が表出する事になる。したがつて、これらの栄養素を一定量を重量に配合させ、我々の健康を保たなければならぬ。又、すゝさういゝのくせのある人は、病氣になりやすいか、努力して早くこのくせを直さなくては、けだる

